

香港らしさ

今井 七重

早いもので、香港へ来てから半年が過ぎようとしています。

娘たちの通う香港日本人学校大埔校には、ようやく夏休み明けから、国際学級の生徒が入学してきました。従来からある香港日本人学校とは、姉妹校の位置をとりながらも独自の特色を打ち出している大埔校の

実質的なスタートです。一國二制度の香港同様、昨年四月に開校されたばかりの二校二学級制の新設校日本語クラスで学ぶ娘二人を通して、学校の様子を少し述べて見たいと思います。

日本語クラスは、各学年二十名から三十名の二クラス編成（但し、六年生のみ一クラス）です。一方、教

室が別の階にある国際クラスは、日本の幼稚園年長にあたるREから四年生までの一クラス十三、四名の五学年からなっています。国別には、イギリス・日本の十六名を筆頭にアメリカ十二名、オーストラリア、香港中国、マレーシア、韓国と続きます。(十月現在)

当初の予定では、休み時間が一緒なので国際クラス、日本語クラスの密なる連携が日常頻繁にみられるはずでしたが、国際クラスが開校したばかりでもあり、お互い遠くから、様子を伺っている状態です。「休み時間に、国際クラスの子はお菓子食べている、いいなあ」というのが、娘たちの初感想でした。

国際クラスは、毎月一回「スペシャル・テーマ・デイ」があります。九月は、「海賊」がテーマで当日、子どもたちは皆海賊の格好で登校、その日一日は、海賊の話や歌や詩が校内を流れ、宝捜しも行われ、学校がまるで宝島に変身するのです。先生までも海賊に変身して、気分を盛り上げます。それを登校時間や休み

時間に垣間見た子どもたちの感想は、「私も、国際クラスに行きたいな」でした。

指定の制服はあるものの、入学の時期の四月には売り切れがあったり、日本からの入荷が遅れたりするところもある場所柄、強制力はありません。似たようなものであれば、構わないというわけです。事実、上着など、校章のプリントのない白の上着をきている生徒の方が多いぐらいです。そんな中、先日「ドレスカジュアルデイ」という催しがありました。これは、制服にとらわれず、カジュアルな服装で登校し、くつろいだ服装で楽な気持ちで登校できる事を感謝する意味で、わずかな金額で良いから、困っている人を助けるための募金に協力しましょう、という日です。主催は香港の公益基金協会で、教育署も積極的な協力を行っており、香港政府を始めとする政府機関、香港の各学校、各組織が参加するもので、大埔校でも参加する事になり、子どもたちは、カラフルな洋服を着て、心ばかり

の募金をもって登校しました。日本の「赤い羽根の共同募金」に似ていますが、服装と結びつけているところが、ユニークだと思いました。

大埔校の特色のもう一つの大きな柱であるイマージョン教育も九月になりスタートしました。

「イマージョン」とは、英語で「どっぷりつかる」の意味で、英語にひたりながら本来の目的である図工の授業を行っていくというものです。授業はすべて英語で進められます。一年生から週三時間ある英会話の先生たちとも連携をとりながら、二時間連続の図工の時間、先生は一切日本語を話さず、目的を果たすわけです。子どもたちがどんな反応を示すかとても興味がありました。

「何をいつているのか、はっきりわからないけれど、見ていけば、なんとなくわかるよ」といって、それなりの作品を仕上げてきます。英語に対する抵抗はあまりないようです。長女の担任の先生の説明によると、

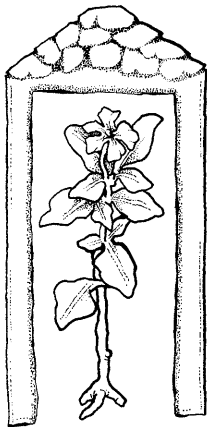
教師「Draw stem green and yellow. And paint some leaves green.」

生徒1「……」静かに聞いている

生徒2「ねえ、わかった？」小さな声で隣の子にささやいている

生徒3「葉っぱね。オーケー、オーケー」

とさまざまな反応を示すそうです。そして、「葉っぱ、葉っぱ、葉っぱのことだよ」と周りの子に教える生徒の大きな声につられて、教師の方が「ハ、ハ、ハ、ハッパ？」と日本語を教わる場面もあるらしい



く、とてもほのぼのしい印象があります。

娘たちも日本の学校とは違った経験を色々としていくようです。

私も、ここに来て、ある意味の香港らしさを感じる経験をしています。

水周りの悪さは噂に聞いていましたが、ここ三週間
で我が家のトイレはトラブル続きです。トイレ用の水
は海水を使用しているためか、どの家庭でもパイプの
老朽化が激しいようですが。ある日、突然フラッシュ
レバーが作動しなくなりました。レバーを固定してい
るネジが壊れたようです。すぐにアパートを管理して
いるオフィスに電話するのですが、「修理の人の都合
を聞いてからコールバックする」との返事。ようやく
翌日電話がかかってきて、「早くて三日後」と悠長な
返答。待ちに待った修理の人が来てから、二日後、今
度はタンクに水がたまらなくなりました。今回は、内
部のチェーンが切れている様子です。前回と同じ経過

で修理の人がきて、ほっと

したのも束の間、今度は、

レバーが向こうへいったき

り、戻ってこなくなりまし

た。水を流すには向こうに

いったきりのレバーを手で

元に戻してからという、面倒な事になったわけです。

クレームをつけたら、即対応してもらえると考えるこ

と自体、ここでは、非現実ともいえます。早くて三

日、下手をすると催促の電話をする迄、平気でほって

おかれたりもします。狭いのにトイレが二つあるの

は、こういう事態に対応するためではないかと思わ

ず、勘ぐりたくなるほどです。それから、数日後、今

度はトイレが二つとも流れなくなりました。又、管理

事務所に電話かと憂うつになっていたら、どうやら同

じ棟の人が同じ被害にあっていることが判明しまし

た。つまり、共同タンクが空になっていたようです。



これは、さすがに五時間後に回復しました。トイレのトラブルがあるたび、内部を覗いていたせいか、このところトラブルの原因を推測できるほどになりましたし、またかとあきらめの境地にも達し、「どうしてすぐに対応してくれないのだろう」と怒るより、「二つあってよかった、人命にかかわることではないし」と思うようになりました。人間が丸くなった感じです。

洗面所の下のパイプから水がぼたぼたと漏れはじめた時も、「またか」と思いましたし、事実下見にきた管理事務所の人に「修理の人が来るまで、約一週間ぐらいかな。その間バケツで受け止めて下さい」との悠長な返答に「ここが香港、私は香港に暮らしている」と改めて思ったぐらいで、おとなしく、いわれた通りにしていました。

香港は日本のバブル時期と同じなのか、この住宅環境でどうしてこんな値段がついているのかと思えるくらいの家賃です、私たちの住んでいるアパートは、上

級マンションに属しているそうで、（最高級ではありませんが）家賃は約五十万円もします。しかし、上の階の人が、シャワーを使う音もよく聞こえますし、玄関を一步出ると、隣のテレビの音から、話し声まですべて聞こえます。つまり、私が子どもを怒る声もすべて、聞こえているわけです。日本でならば、とても気になり、怒る時には、窓を閉め切る等工夫をするところですが、ここは香港。同じフロアーには、イギリス人、韓国人が住んでいるので、今日も気にせず、怒っています。

時として、失意を感じる出来事に出会う香港ですが、それもまた、面白いと感じる事ができるようになりつつある今日この頃です。

（元幼稚園児の母・香港在住）